

「平成28年度 第1回県政モニターアンケート調査」 調査結果 (概要)

県政モニターの皆様に対して、県政運営の参考とするために下記のとおりアンケート調査を行いました。

1 調査方法

- (1) 調査地域 : 長野県全域
- (2) 調査対象者 : 県政モニター(県内在住の18歳以上の男女)
1,235人(無作為抽出1,132人、公募103人)
(現在の県政モニターは平成28年7月から登録)
- (3) 調査方法 : 郵送又はインターネット
- (4) 調査期間 : 平成28年8月19日(金)～平成28年9月12日(月)

2 調査内容

- 次の6項目について16問を設定
- (1) 最大電力需要の抑制(ピークカット)について
 - (2) 「自転車事故を補償する保険」について
 - (3) 地域の防災活動への参加について
 - (4) 人権に関する意識について
 - (5) 県産農産物の認知度・購入意識・食生活について
 - (6) 県職員の姿勢・行動について

3 回収状況

回収数 1,057人 (回収率 85.6%)

回答者の内訳

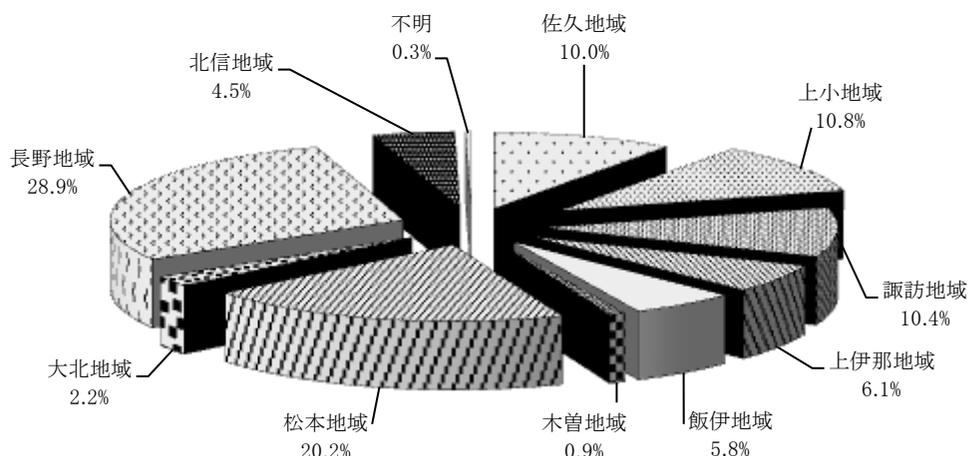
【男女別と年代別】

	総数	18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	不明
総数	1,057	7	52	110	167	230	308	180	3
	100.0%	0.7%	4.9%	10.4%	15.8%	21.8%	29.1%	17.0%	0.3%
男性	548	3	21	41	79	119	177	108	-
	51.8%	0.3%	2.0%	3.9%	7.5%	11.3%	16.7%	10.2%	-
女性	506	4	31	69	88	111	131	72	-
	47.9%	0.4%	2.9%	6.5%	8.3%	10.5%	12.4%	6.8%	-
不明	3	-	-	-	-	-	-	-	3
	0.3%	-	-	-	-	-	-	-	0.3%

※ 割合(%)はすべて、総数(n=1,057)に対する割合

【地域別】

	総数	佐久	上小	諏訪	上伊那	飯伊	木曾	松本	大北	長野	北信	不明
回答者数	1,057	106	114	110	64	61	9	214	23	305	48	3
	100.0%	10.0%	10.8%	10.4%	6.1%	5.8%	0.9%	20.2%	2.2%	28.9%	4.5%	0.3%



1 最大電力需要の抑制(ピークカット)について

問1 最大電力需要の抑制(ピークカット)に関する認知度

■「聞いたことがあり、意味も知っている」と「聞いたことがあり、意味もだいたい分かる」が合わせて約6割、「聞いたことはあるが、意味は分からない」と「聞いたことはない」が合わせて4割弱

① 「聞いたことがあり、意味も知っている」	20.1 %
② 「聞いたことがあり、意味もだいたい分かる」	42.5 %
③ 「聞いたことはあるが、意味は分からない」	13.3 %
④ 「聞いたことはない」	23.8 %

(単数回答)

問2 有効なピークカットの方法

■「着ているものに涼しい又は暖かいひと工夫をする」が約8割。「電力使用量の多い時間帯(ピーク)や家電製品の同時使用を避ける」が6割超

① 「着ているものに涼しい又は暖かいひと工夫をする」	80.6 %
② 「電力使用量の多い時間帯(ピーク)や家電製品の同時使用を避ける」	65.3 %
③ 「快適に過ごせる施設や場所に出掛け、涼しさ(暖かさ)を分かち合う」	56.1 %
④ 「家電製品の使い方を見直す」	49.4 %
⑤ 「知らない」	6.8 %

(複数回答)

問3 節電のために実践していること

■「不要な照明はできるだけ消す」が9割超。「長期間使わない機器はコンセントからプラグを抜く」が約7割

① 「不要な照明はできるだけ消す」	96.0 %
② 「長期間使わない機器はコンセントからプラグを抜く」	67.6 %
③ 「照明器具はLED等省エネタイプに更新する」	64.9 %
④ 「便座保温は使わない時にはフタをしめる」	60.4 %
⑤ 「エアコンの設定温度を夏は28度、冬は20度に設定する」	40.9 %

ほか (複数回答)

2 「自転車事故を補償する保険」について

問4 自転車の保有状況

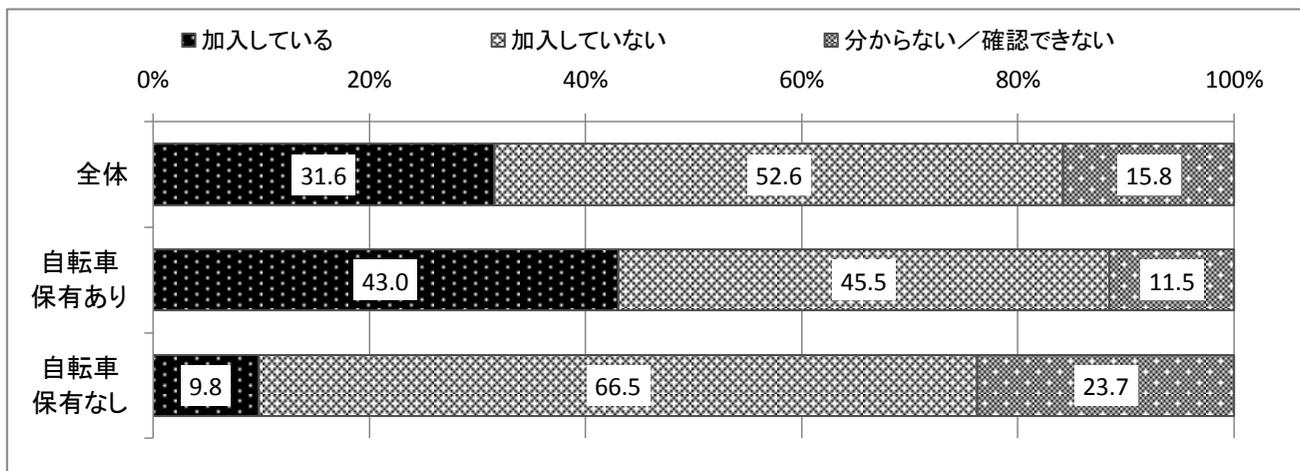
■同居の家族を含めて自転車を「保有している」と回答した人が6割超

① 「保有している」	65.7 %
② 「保有していない」	33.9 %
③ 無回答	0.4 %
(単数回答)	

問5 「自転車事故を補償する保険」の加入状況

■「自転車を保有し」、かつ「保険に加入している」と回答した人が4割超

① 「加入している」	31.6 %
② 「加入していない」	52.6 %
③ 「分からない／確認できない」	15.8 %
(単数回答)	



(問5で「加入している」と回答した方)

問6 加入している自転車保険の種類

■「損害保険の特約として加入」が5割超、「自転車保険」加入、「TSマーク付帯保険」加入がそれぞれ約2割

① 「自動車保険、火災保険などの損害保険の中で、特約として加入」	56.0 %
② 「「自転車保険」と名称に明記している保険」	24.3 %
③ 「点検・整備を受けた安全な自転車に付帯される「TSマーク付帯保険」	22.5 %
④ 「小中高校生が学校で加入するPTA保険」	17.7 %
⑤ 「クレジットカードその他に付帯している上記①～④以外の付帯保険」	4.5 %
⑥ 「加入していることは確かだが、どのような保険であるかは分からない」	3.9 %
(複数回答)	

3 地域の防災活動への参加について

問7 地域で実施されている防災活動への参加について

■ 防災活動へ「積極的に参加している」、「参加したことがある」が、合わせて8割弱

① 「積極的に参加している」	27.3 %
② 「参加したことがある」	50.0 %
③ 「参加したことはない」	22.2 %

(単数回答)

問8 参加している防災活動について

■ 「自治会などの地域単位で行っている防災活動」が9割超、「行政等が実施する防災に関する講習会等」が約2割

① 「自治会などの地域単位で行っている防災活動（防災訓練等）」	94.4 %
② 「行政等が実施する防災に関する講習会等」	20.9 %
③ 「有志による防災ボランティア活動」	2.7 %

(複数回答)

問9 防災活動に参加しない理由

■ 「参加したいが、仕事など他の用事を優先」が約4割、「防災訓練や講習会等があることを知らなかった」が2割超

① 「参加したいが、仕事など他の用事を優先」	41.3 %
② 「防災訓練や講習会等があることを知らなかった」	22.6 %
③ 「参加する方法が分からない」	15.3 %
④ 「自治会などが実施していない」	15.3 %
⑤ 「防災に関心がない」	3.4 %

(単数回答)

問10 地域の防災力を高めるために必要なことについて

■ 「住民個々の意識高揚」が8割超、「地域の交流や地域行事への参加」が6割超、「若年層世代の参画」、「防災に関する講義や体験型講習会(ワークショップ)の実施」がそれぞれ4割超

① 「住民個々の意識高揚」	82.8 %
② 「地域の交流や地域行事への参加」	65.4 %
③ 「若年層世代の参画」	45.4 %
④ 「防災に関する講義や体験型講習会(ワークショップ)の実施」	42.7 %
⑤ 「リーダーの育成」	36.3 %

ほか(複数回答)

4 人権に関する意識について

問11 人権を尊重する意識の定着について

■「長野県は人権を尊重する意識が定着した住みよい県だと思う」と「少しはそう思う」が合わせて約5割

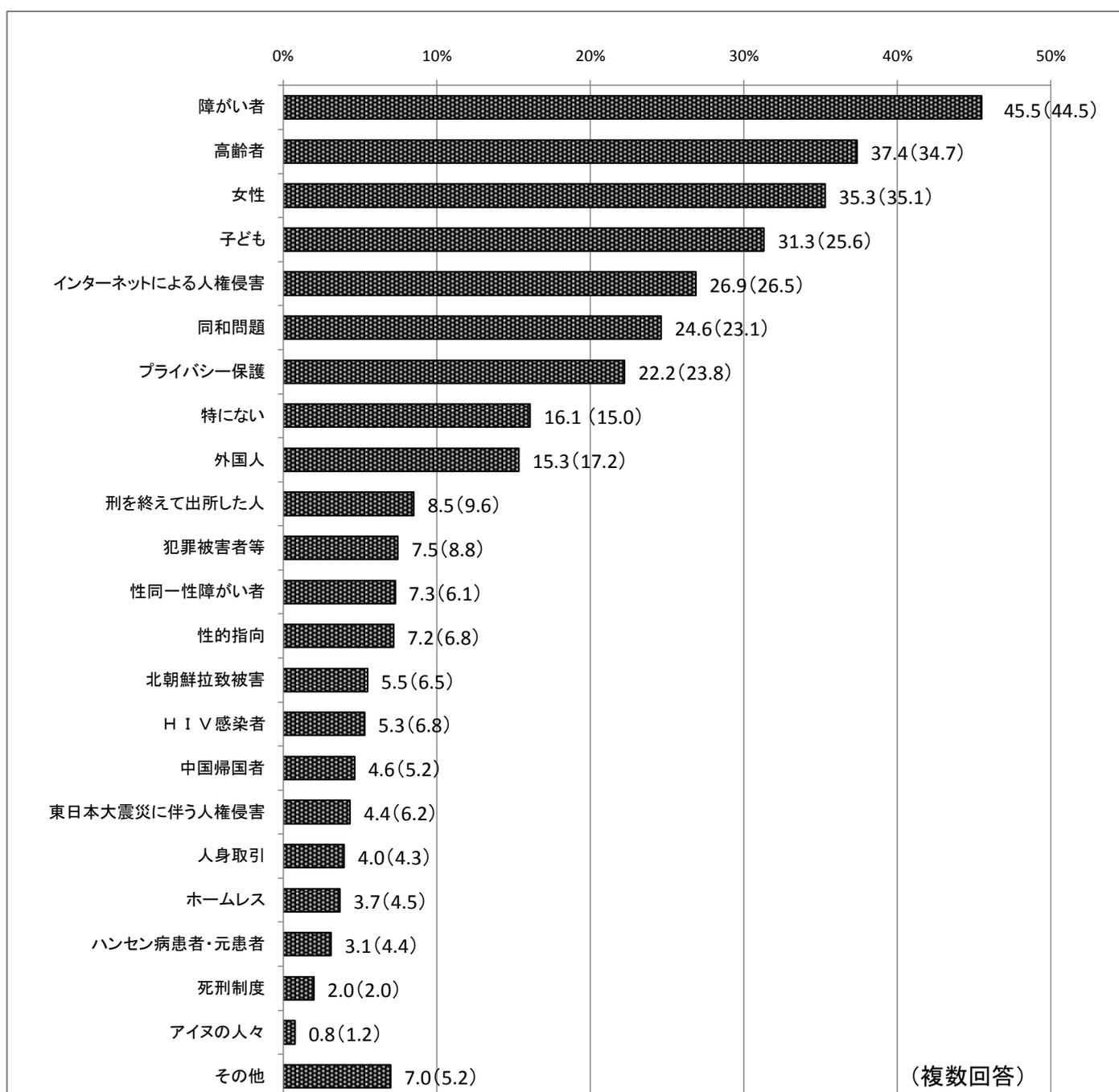
① 「そう思う」	18.7 % (18.2 %)
② 「少しはそう思う」	31.4 % (36.3 %)
③ 「あまりそう思わない」	7.3 % (—)
④ 「そうは思わない」	1.5 % (6.4 %)
⑤ 「どちらともいえない」	38.9 % (38.1 %)
⑥ 無回答	2.2 % (1.1 %)

(単数回答)

※ () 内数値は、平成27年度第1回県政モニターアンケート調査数値

問12 長野県で起きていると思う人権問題

■「障がい者に関すること」が4割超、「高齢者に関すること」が4割弱、「女性に関すること」が3割超



※ () 内数値は、平成27年度第1回県政モニターアンケート調査数値

5 県産農産物の認知度・購入意識・食生活について

問13 信州オリジナル食材等の認知度

■「りんご：シナノゴールド」、「りんご：シナノスイート」、「りんご：秋映」、「信州サーモン」は約9割が認知と前回に引き続き高い。「おいしい信州ふード（風土）」は約11.5ポイント認知度が減少。

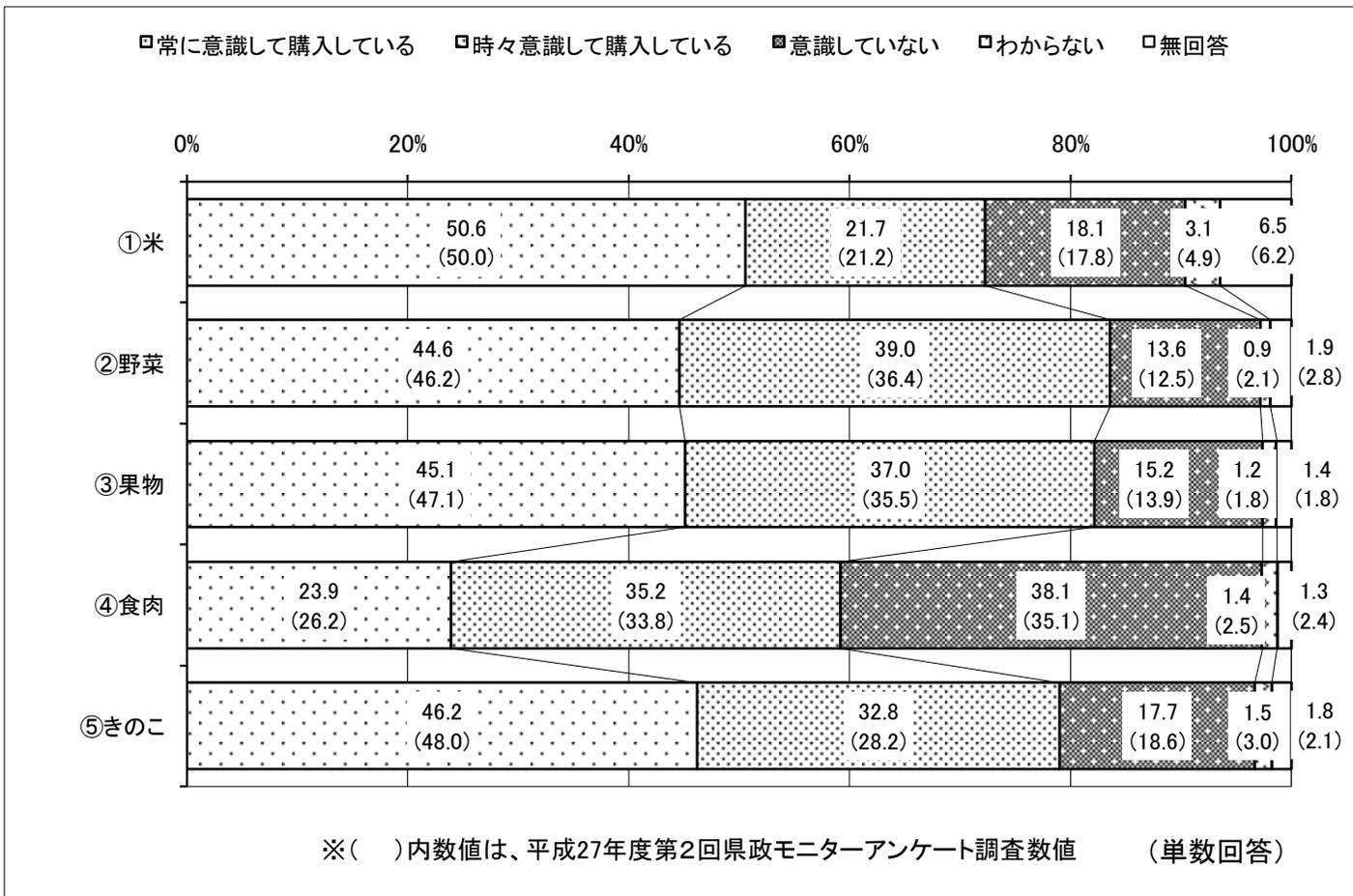
① 「りんご：シナノゴールド」	97.2 % (96.7 %)
② 「りんご：シナノスイート」	96.0 % (95.3 %)
③ 「信州サーモン」	95.4 % (95.3 %)
④ 「りんご：秋映」	87.1 % (87.4 %)

【参考】 「おいしい信州ふード（風土）」 ほか（単数回答）
54.1 % (65.6 %)

※（ ）内数値は、平成27年度第2回県政モニターアンケート調査数値

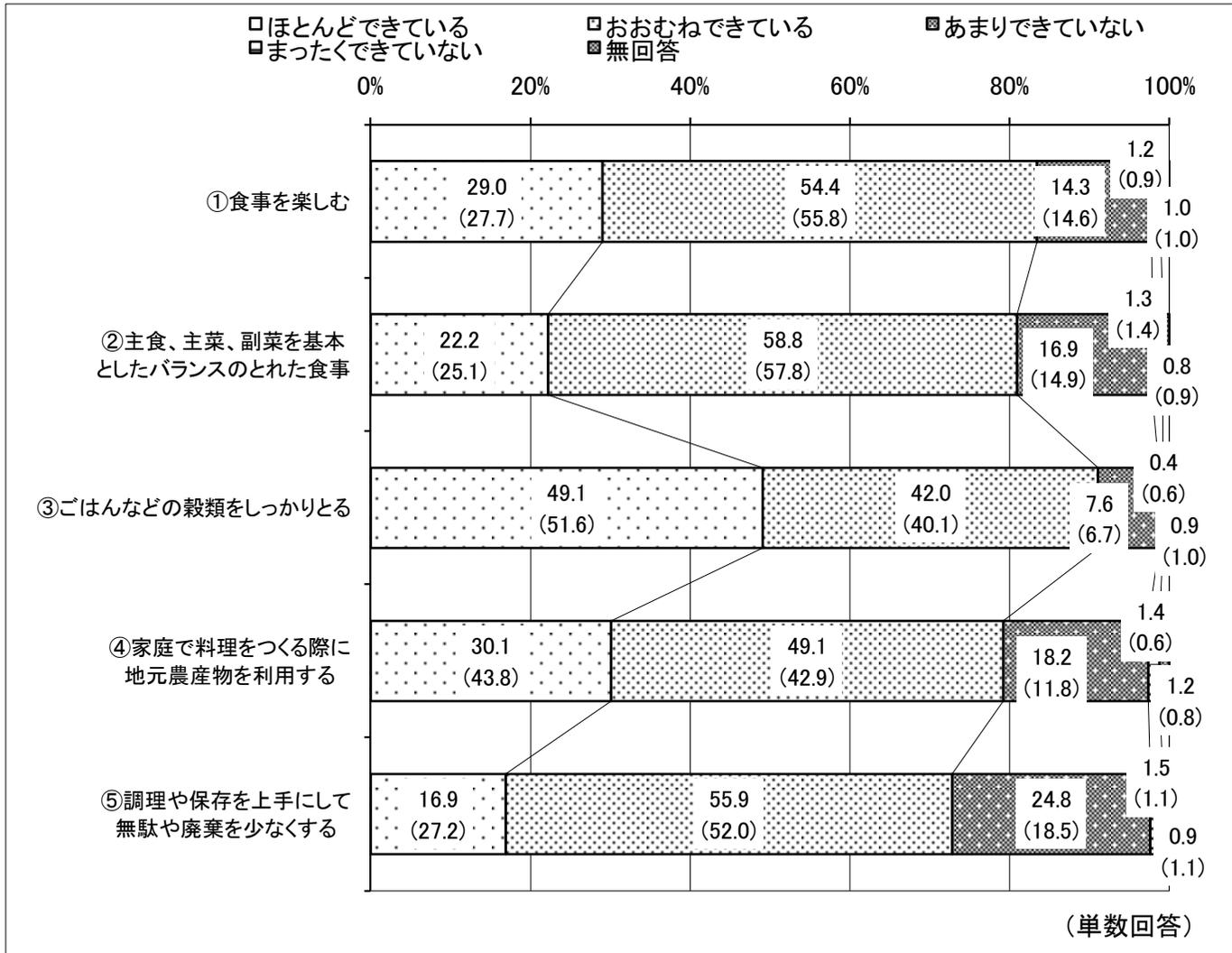
問14 長野県産又は地場産の購入意識

■野菜、果物、きのこは「常に意識して購入している」、「時々意識して購入している」を合わせた割合が約8割と、前年度に続き高い水準で推移。



問15 食生活上の実践度

■「ごはんなどの穀物をしっかりとる」は約9割、「食事を楽しむ」「主食、主菜、副菜を基本としたバランスのとれた食事」「家庭で料理をつくる際に地元農産物を利用する」の実践についても約8割が「できている」であり、食生活上の実践度はいずれも高い水準にある。



6 県職員の姿勢・行動について

問16 職員の姿勢・行動について

■「前例にとらわれず、状況に応じて最適な対応」が約7割で最多、次いで「県民ニーズの的確な把握」が6割超

